



平成26年度 学位記授与式

名古屋工業大学平成26年度学位記授与式が3月23日(月)、名古屋市公会堂大ホールにおいて、卒業生および保護者等が出席して厳かに開催された。

式典は、鵜飼学長をはじめ大学役員、水嶋名古屋工業会理事長等来賓が列席し、管弦楽団によるワーグナー作曲「ニュルンベルグ」マ

イスタージンガー第1幕への前奏曲の演奏で開式、博士41名、修士616名、学士928名に学長から学位記が授与された。続いて学長式辞があり、大学院修了者・学部卒業生の各代表から答辞が述べられた。

最後に合唱団によって学歌が合唱され、学位記授与式を終了した。



学 長 式 辞

国立大学法人名古屋工業大学

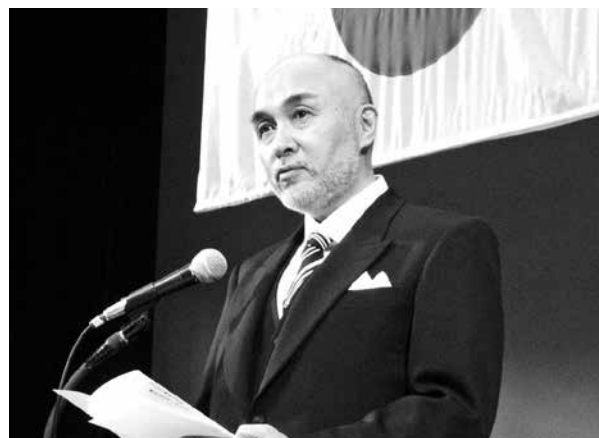
学長 鵜飼 裕之

本日はご卒業おめでとうございます。ここに、博士41名、修士616名、学士928名、合計1,585名の皆さんに学位を授与致しました。無事学位を取得されたことに、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様ならびに列席の理事・副学長、各部局長をはじめとする教職員一同、心よりお慶び申し上げます。61名の留学生の皆さんには、とくに母国を遠く離れ、学業に研鑽を積まれ、不慣れな異国の地で学生生活を送られたことに対して、Congratulations!と申し上げたいと思います。また、第二部の15名の皆さん、27名の社会人学生の皆さん、日々の仕事に疲れた身で夜遅くまで学業に打ち込まれた努力に、心より敬意を表したいと思います。併せて、今日の学位記授与式を迎えるまで、ご家族ならびに関係の皆様より、いただいた多大なご支援に対し、名古屋工業大学を代表して厚く御礼を申し上げます。

さて、名古屋工業大学は今年で創立110年を迎えます。明治41年に、初めての卒業生54名を送り出して以来、これまでに7万人を超える優れた卒業生を輩出し、この地域ひいてはわが国の産業社会の礎を築きその繁栄を支えてきました。皆さんの先輩は、産業界、大学・研究機関、官公庁など様々な場所で大変素晴らしい活躍をされておられます。

今日も、たくさんの女子学生の皆さんが晴れやかな姿で本式典を彩ってくれていますが、今から36年前、私が本学の修士課程を修了したころ、女子学生数は全体の1.3%に過ぎず、また留学生もそのころは全体の0.2%、10名にも満たないごく少数で、当時の卒業式とは随分様変わりしています。

名工大は、昨年、男女共同参画推進センターを立ち上げるとともに、文部科学省の「女性研



究者研究活動支援事業」に採択されました。工学の世界では長らく少数派であった女性研究者・技術者への期待に応えるため、多くの女性技術者の産業界への輩出と女性研究者の育成、包括的な支援、女性教員・女子学生の増加を目指したポジティブアクションを実施するなど、男女共同参画を推進しています。また、国費をはじめとする様々な奨学制度の充実、「アジア人財ものづくりスーパーエンジニアリング養成プログラム」などを通して、より一層の留学生の入学機会の増大、留学生教育プログラムの充実をはかっています。さらには、国外の著名な大学・研究機関から「研究ユニット」ごとに多数の優れた研究者を教員として招聘し、教育や研究に参画させて国際的な教育・研究環境を整えつつあります。こうしたキャンパス整備が進む中で、将来は、これまでも増して、多くの女子学生、留学生が名工大を巣立っていくことになると思います。その先陣として皆さんのご活躍を益々期待しています。

今、「ダイバーシティの推進」が、企業を中心とした様々な組織で進められています。ここでいう「ダイバーシティ」とは、人種、民族・国籍、性別、宗教など、個人や集団の間で違いを生み出す可能性のあるあらゆる要素、すなわ

ち「人材の多様性」を示す言葉です。この理念の下で、男女共同参画社会の実現や国際的な人材雇用などが、今、急速に進められています。社会がグローバル化する中、わが国の産業がグローバル競争の中で勝ち残っていくためには、「縮小均衡経済」から「価値創造経済」への変革が必要であり、新たなイノベーションを牽引する起爆剤として多様な人材を、「適所、適材」に配置し、活用することが組織に求められています。技術的な観点からは、異分野との融合、多面的な視点、多様な価値観と感性による「プロダクトイノベーション」「プロセスイノベーション」が期待されています。皆さんを待っている企業は、既にこのような段階に入っていると考えてください。

では、グローバル化、多様化する世界の中で、皆さんがどのように生きていくのか？ここに、私から3つのポイントをあげたいと思います。

まずはアイデンティティ。皆さんは、名工大において、厳しい授業・実験・実習、研究指導を通じて勉学に励み、知と技能を磨き、また、課外活動などの体験を経て、高い倫理観をもった技術者・研究者としての研鑽を積んできました。そして、今日、立派に学位を取得されました。その自信が皆さんの「アイデンティティ」、すなわち技術者・研究者としての原点です。これから様々な人たちと協働する中で、そのことを自負し、さらに研鑽を積んで技術者・研究者としての「アイデンティティ」を確固たるものにしてください。

その過程で、皆さんはこれから多くの課題に直面することになるでしょう。それは、時には高い障壁となって皆さんの前に立ちふさがるかもしれません。2つめのポイントは、「リスクを取る勇気」です。世界的に著名な経営学者であるクレイトン・クリステンセンは、その著書である「イノベーションのDNA」の中で次のように言っています。「これまでにイノベーションを起こした素晴らしいイノベータに共通した

姿勢の一つは、リスクを認識したうえで、自らの責任で果敢に、スマートにリスクをとる」ことである。問題を前にして、「これはリスクが高すぎる」とか「私には荷が重すぎる」などとあきらめる前に、敢えてリスクを取って立ち向かう「気概」を持つこと。また、壁が立ちはだかったときには、一旦立ち止り、高い視点に立って解決する糸口を見つけるために、時には一歩退き態勢を見直す「知恵」を持つこと。私はこれが真の「勇気」であると思います。すでに、皆さんは、研究を進める上でそのような場面を経験してきたはずです。その時のことを思い出し、これからも「勇気」をもって粘り強く障壁に立ち向かってください。

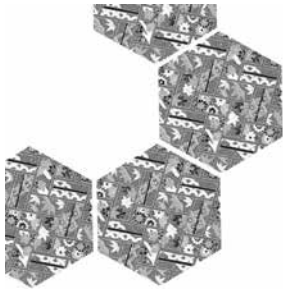
3つめに「夢」をもつこと。そして、その夢を実現するために、常に「志」を高くして前に進むことです。今、グローバル化の波に日本人は右往左往していますが、思い出してください。明治維新のころ、語学も満足にできない若者たちが、「高い志」を掲げて海を渡り、様々な知識を学び、経験を積み重ねて、今日の日本の土台を築いてきたことを私たちは忘れてはなりません。

工学技術者・研究者としての「アイデンティティ」を確固たるものにし、「夢」を実現するための「志」を抱きつづけ、立ちはだかる課題に「勇気」を持って挑んでください。これを私の饒の言葉として、本日、学位を取得された皆さんに、贈りたいと思います。

名古屋工業大学は、今日、新たなスタートを切る皆さんをこれからも応援していきます。そして、皆さんに続く優秀な人材を世に送り出すため、110年の伝統と誇りを守りながらもそれに甘んじることなく、変化する社会・産業界の期待に応え、世界に伍していける大学になるべく進化してまいります。

皆さんのご健闘を祈念しています。

本日は、誠におめでとうございませう。



平成26年度 名古屋工業会賞贈呈式

(学生支援事業)

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会
理事長 水嶋 敏夫 (M42)

ご紹介いただきました水嶋でございます。

平成26年度名古屋工業会賞贈呈式にあたり、全学の同窓会であります一般社団法人名古屋工業会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日学位を授与されました皆様、ご同席のご家族そして関係者の皆様には、栄えあるこの日を迎えられ、感激と喜びは如何ばかりかと拝察致します。

また留学生の皆さんにおかれましては故郷を離れて学業・研究に専念し、所定の目標を達成されたこと、その意欲と努力に深く敬意を表したいと思います。

先程19名の方に、名古屋工業会賞を贈呈しました。

この賞は名古屋工業大学を卒業する学生の皆さんのうち学業成績が特に優秀であり、豊かな感性とリーダーシップを持って、他の模範になると認められた方々に、学長の推挙に基づいて贈呈するものです。

これから進まれるそれぞれの分野において輝かしい活躍を期待しております。頑張ってください。

さて、皆さんの中にはこれから直ぐ社会に入る人もみえますし、更なる研究の道に進む人もみえ、それぞれ新たなスタートラインに立った訳ですが、皆さんへの餞の言葉として、卒業生でもある私が先輩としてお伝えしたいのは「志」と「絆」を大切にしてくださいということです。

皆さんは、卒業後それぞれの進む道で「世のため人のため」自分は何をすべきか、何ができるかを今一度自問自答し、この機会に自分自身の「志」をよく考えてほしいと思います。

その「志」を達成するために、高い目標を定め、自分の技術力をより深める努力をし続けて



ほしいと思います。

長い人生で苦しい時、挫折する時も度々あるでしょうが、その「志」があれば、きっと乗り越えられると思います。

また、私自身もそうですが、学生時代及び社会生活の中で多くの友人を作り、生涯の交流を続けている方々は沢山みえます。

社会で成功を収める人の多くは、たゆまぬ努力を続けて成果をあげている事が基本ですが、社会の中で一つの事を成し遂げるには、今では個人の力だけでは不十分で、「チームとしての力」が大変重要になります。

人とのつながりが、色々な面で援助となり、励ましとなり、大きな成果を出す事につながると思います。

一人でも多くの人を知り、交友を深め「絆」の輪を広げていって欲しいと思います。

今日から名工大卒業生としての誇りを胸に、各方面で活躍されることを期待します。

さて、名古屋工業会はいわゆるOB会組織として「耀く、ますます耀く母校を願って」をキーワードに『大学支援』を事業目的の第一の柱として活動をしています。

既に人口減少に転じた我が国では、国立大学の在り方が議論されて久しいですが、母校の更なる発展は卒業生の皆さんの双肩にかかっているというぐらい気持ちをもって、母校への帰属意識を大切に、後輩たちの育成支援に貢献して欲しいと思います。

工業会のもう一つの活動の柱は会員相互の親睦です。

日本全国には、北から南まで22支部の拠点があり、既に卒業された諸先輩が会員相互の親睦を深める活動をされています。

皆さんの新たな活躍の場は全国に広がると思

いますが、工業会のホームページでは各支部の活動に関する情報をお知らせしていますので、支部活動にも積極的に参加して人的交流を深めて頂くとともに、若い力で全国の支部の活性化に向けて、新風を巻き起こして頂きたいと思います。

最後になりましたが、これまで卒業生の皆さんを育てられたご家族に深い敬意を表しますと共に、鶴飼学長はじめ教育研究のご指導を頂きました教職員の皆さま方に心からの謝意を表し、私の挨拶といたします。

本日は大変おめでとうございます。

名古屋工業会賞の贈呈式が平成27年3月23日(月)に名古屋工業大学学位記授与式の後で行われ、水嶋理事長から次の19名に表彰状と記念品(刻銘入り時計)が贈呈された。

名古屋工業会賞は、第一部、第二部の各学科卒業生のうち、在学中の学業成績がきわめて優秀であり、豊かな感性を持ち他の学生の模範となる学生に対して、学長の推挙に基づき贈呈するものです。



贈呈者

(第一部)

生命・物質工学科	谷口 慶充	高士 文香	山内 光司
環境材料工学科	寺田 安梨沙	河端 佑太	
機械工学科	西山 典	柿ヶ野 巧	佐藤 里奈
電気電子工学科	加藤 直樹	山川 智之	中垣 友哉
情報工学科	石樽 隼人	松井 泰地	谷口 慶一郎
建築・デザイン工学科	安藤 風子	荒川 翔太郎	
都市社会工学科	佐藤 理佳子	小野寺 知美	

(第二部)

機械工学科	大串 太一
-------	-------



平成27年度 入学式

名古屋工業大学は4月6日(月)、平成27年度入学式を名古屋市公会堂大ホールにおいて開催した。

式典は、鵜飼裕之学長をはじめ大学の役職者、名古屋工業会の水嶋敏夫理事長、二木幸夫常務理事らが列席し、管弦楽団の奏楽で開式した。

鵜飼学長から工学部第一部963名、工学部第二部25名、大学院工学研究科博士前期課程656名、博士後期課程43名、総数1,687名の入学が許可され、各代表が勉学・研究に専念する旨を宣誓した。続いて、鵜飼学長から入学者歓迎の式辞が述べられた。最後に、新入生を歓迎して合唱団が学歌を合唱し、入学式を終了した。

引き続き、名古屋工業会特別奨学金授与式が行われた。各学科の成績優秀者7名に、水嶋理事長から賞状と特別奨学金目録が授与され、お祝いの言葉が述べられた。

この後、新入生には学部生と大学院生に分かれて新入生オリエンテーションが行われた。保護者には名古屋工業大学と名古屋工業会による保護者説明会が開催され、鵜飼学長の挨拶の後、山下啓司キャリアサポートオフィス長ら大学教職員から、名工大の特長、入学から就職までの大学生活をサポートする体制について説明が行われた。また、水谷尚美連携強化委員長が全学同窓会である名古屋工業会について説明し、保護者に本会への理解と協力を求めた。



保護者説明会

学 長 式 辞

国立大学法人名古屋工業大学

学長 鵜飼 裕之

皆さん、名古屋工業大学にご入学おめでとうございます。ご臨席のご来賓ならびに列席の理事・副学長、部局長をはじめとする教職員一同とともに、皆さんのご入学をお祝いしたいと思います。日々勉強に勤しんできた努力が、今日、実を結び、晴れて入学されたことに敬意を表します。また、これまで皆さんを力強く支えてこられたご家族、関係の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

わたくしも40年以上前は、初々しい名工大生でした。皆さんの先輩として、名古屋工業大学の歴史と建学の精神について、まずは、お話ししたいと思います。

名古屋工業大学は、明治38年に創設された全国で4番目の官立名古屋高等工業学校および昭和18年創設の愛知県立高等工業学校を源流として、昭和24年に二つの学校が合併し、新制の国立大学として発足致しました。第二次世界大戦の空襲で殆どの建物が焼失してしまいましたが、このとき、教職員、学生、卒業生が一体となって復興運動が起こり、「この御器所が丘の地で名工高の歴史と伝統を守る」その決意の下で、本学を存続させるために目覚ましい活躍をされた、そんな逸話が残っております。私たちの先輩が、如何に、名工大へ情熱をもっていたか、新入生の皆さんにも是非知っておいて頂きたいと思います。以後、名工大は、我が国の国力の発展と科学技術の進歩に伴い、教職員数約520名、学生数約5700名の国立大学工学部の中でも屈指の規模を誇る工学系単科大学として発展し、今日に至っています。

次に、創立110年という歴史ある名工大の根底を流れる建学の精神についてお話しします。名工大創立にあたって、初代学長である清水勤二先生は、教育と研究を両輪とする工業大学として、産業界の活きた問題を掘り起こし、それを活きた研究とすることで学術の根を深くおろ



すとともに、新たな製品を生み出す研究成果を創出していく。さらに、研究を教育に活かすことで優れた工学人材を養成することが、名古屋工業大学の使命であると、建学の精神を述べておられます。この実学を重視した名工大の学風が、今日まで7万人を超える優れた人材を世に送り出し、数多くの卓越した研究成果を築いてきました。カンバン方式、ジャストインタイム方式で有名なトヨタ生産方式を生み出し、メイドインジャパンの世界的な生産方式として確立した大野耐一さん、鈴木喜久雄さんなど、皆さんの先輩方の足跡は世界中至る所で見つけることができます。また、産学官連携共同研究の実績としては、教員一人当たりの企業との共同研究件数および共同研究費は全国の国立大学で常に最上位にランクされています。

名工大は、この中京地域を中心とした産業界とともに育ってきました。この地域は、わが国ひいては世界のものづくり産業の卓越した集積拠点です。この地域の活性化が、わが国の産業の成長の鍵を握っているといっても過言ではありません。名工大が、わが国および世界の発展に極めて大きな役割を担っている、そのことを理解していただきたいと思います。

さて、皆さんもご存じのように、昨年ノーベル物理学賞を受賞した赤崎先生、天野先生、中

村先生は、窒化ガリウムから青色のLEDを生み出し、産学官連携研究を通じて照明や通信などの分野で新しい価値を創造し、社会の変革、イノベーションを起こしました。本学にも、「窒化物半導体マルチビジネス創成センター」という、窒化物パワーデバイスの実用化と事業化に向けた研究開発拠点があります。そこでは、世界に先駆けて8インチ半導体ウェファの製造技術を開発し、省エネルギーの分野でイノベーションを起こすことが期待されています。

皆さんが今使っているスマホもイノベーションを起こしました。タッチパネルを用いた斬新なデザインと操作方法、人を魅了し引き付けるコンテンツなど独創的な発想で新しい世界を築きました。小さな箱の中の薄い基盤上に1000点もの電子部品が載り、それに加え、高速CPU、高解像度の液晶パネル、高密度のリチウムバッテリーなど、まさに最先端の科学技術がいっぱい詰まった技術の宝箱です。

さらに、スマホ同士を結ぶ高速通信ネットワーク技術と音声・画像などのメディア情報を処理する技術など多様な技術革新が集積してあります。独創的な発想で新しい価値を生み出して世界を変えようとする、チャレンジ精神あふれる様々な分野の工学研究者・技術者が数多くいたからこそ成し遂げられたイノベーションと言えます。こうした世界を動かす技術革新が、決して遠いところで起きているわけではありません。いま、ここにある“一つの夢、志”が、他の誰かの志と結びついて社会が大きく動く——そんなイノベーションを引き起こす可能性が皆さんには秘められています。

さて、皆さんは、「工学」を学ぶために名工大に入学されました。これから、それぞれの専門分野で基礎から応用へと「工学の山」を登っていくことになります。大学院に入学された皆さんは、既に3合目あるいは5合目あたりに差しかかっているのかも知れません。では、「工学の山」を登る過程で私たちは、あるいは皆さんは何を身につけていくのですか？

2005年、スティーブ・ジョブスは、スタンフォード大学の卒業式に招かれ、後に「Stay hungry, stay foolish」と題されたスピーチでこんな言葉を残しています。「何より大事なのは、自分の心と直観に従う勇気を持つことです。あなたの方の心と直観は、自分が本当は何をしたいのかももう知っているはず。ほかのことは二の次で構わないのです」。

皆さんが大学で学ぶのは、単に専門の知識と技能だけではありません。専門のみならず、日本の歴史と風土、文化、社会の仕組み、そして世界を知るために幅広い教養を身に付け、自らの人生観、世界観を築く場所と時間を与えてくれるのが大学です。また、課外活動やグループ活動を通じて学ぶ体験も、今の皆さんの感性だからこそ得られるものが沢山あります。互いに触発し合い、切磋琢磨し、コミュニケーション能力を高め、また互いに成長しながら工学の山を登る、そのプロセスを通じて工学研究者・技術者の根底にある「心」を豊かにし、「直感」に磨きをかけて下さい。そして、その山の頂にあるのは、社会から期待される「イノベーションをめざす自立した工学研究者・技術者」です。頂きをめざして、学生生活を思う存分楽しみ、学問・研究に気概を持って取り組んでください。

最後にもう一つ、皆さんに期待されていることがあります。それは、国際性です。世界はどんどんグローバル化し、今、産業界や社会で求められている人材は、自らの考えを国際社会でしっかりと主張できる論理的な思考力、発信力、実行力をもった若者です。海外留学の経験は国際性を養う絶好の機会です。そのための環境整備を名工大は惜しみません。入学生の皆さん、工学研究者・技術者としてのグローバルステージをめざして頑張ってください。

名古屋工業大学は、皆さんの成長を力強く後押し、全力で支援し続けることを約束し、私の式辞といたします。



平成27年度名古屋工業会特別奨学金授与式 (学生支援事業)

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会

理事長 水嶋 敏夫 (M42)

ご紹介いただきました水嶋でございます。

平成27年度名古屋工業会特別奨学金授与式にあたり、全学の同窓会組織であります一般社団法人名古屋工業会を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本日入学されました皆さん誠におめでとうございます、心からお祝い申し上げます。

ご家族そして関係者の方々のお喜びは如何許りかと拝察いたします。

また博士前後期課程進学に際し、これまでの勉学のご努力とご家族のサポートに深く敬意を表しますとともに、教職員および関係者の方々の渾身のご指導に深く謝意を表します。

先程7名の方に、名古屋工業会特別奨学金を授与いたしました。この奨学金は前期入試で各学科に最上位の成績で合格されました学生を対象とし、学長の推挙に基づき授与したもので、名古屋工業会の大学支援事業の重要項目であり、大学及び名古屋工業会の将来への強い期待が込められています。これから進まれるそれぞれの研究分野において、輝かしい成果を期待しております。

さて、名古屋工業会はいわゆるOB会組織ですが、卒業生だけでなく、現役の学生、教職員を会員とする組織として「耀く、ますます耀く母校を願って」をキーワードに『大学支援』を事業目的の第一の柱として活動しています。

大学支援とは、大学の教育研究活動そのものと、大学が行なう留学などグローバルな人材育成施策を中心としておりますが、体育会やソーラーカー、ロボットコンテスト、エフワンなどのクラブ活動、工大祭など課外活動への支援も行なっています。

学生の本分は学業に専念する事が第一であり



ますが、課外活動は多様なメンバーとのコミュニケーション能力やマネジメント力あるいはリーダーシップや精神力を養うことのできる貴重な場です。その経験は、将来社会人になった後大変役に立つと思いますので、積極的に参加して欲しいと思います。

名古屋工業会のもう一つの活動の柱は『会員相互の親睦』です。

現在、工業会には1万3千人の先輩が加入しており、全国にある22の支部では企業などの見学会、講演会、親睦会を開催し、会員相互の親睦と啓蒙を深める活動をしています。

一昨年より工業会への入会は大学入学と同時にできるようになり、過去2年間の新入生の内90%以上が加入してくれています。

皆さんも是非名古屋工業会の会員になって、卒業後は全国各地で様々な分野で活躍されている先輩と交流を深め、名古屋工業会の活動の輪を広げて欲しいと思います。

話は少し変わりますが、ドイツで始まりオランダで広まった学校教育のイエナプランを推進する学校の校長先生のお話をうかがう機会を得ました。

この教育の第一のねらいは学生たちの『自立

化』にあり、自分で考え自分で行動できる人を育てる、そのためにも自然の中でよく遊び、自然から学び人とよく会話することを通じて、自己成長させることを大切にすると書いてみました。

今から始まる皆さんの大学生活は、我々の未来を豊かにする何かを産み出すパワーを蓄積する期間とも言えますが、皆さんが将来「世のた

め人のために」自分は何をすべきか、何ができるかを自分自身に問いかけながら、今しかない青春を精一杯謳歌して欲しいと思います。

名工大生としてのアイデンティティーを大切に、大いに有意義な学生時代を過ごされんことを祈念致しまして、お祝いの挨拶と致します。本日は、おめでとうございます。



【平成27年度 特別奨学金受賞者】

(生命・物質工学科)	宮越 駿
(環境材料工学科)	松田 圭広
(機械工学科)	市川 永貴
(電気電子工学科)	石塚 航太
(情報工学科)	角谷 健太
(建築・デザイン工学科)	早川 翔太
(都市社会工学科)	望月 暁史

平成26年度名古屋工業大学基金寄付者 (平成26年10月～平成27年3月)

※数字は卒業年

【個人】	浅野 達彦 M43	伊藤 治之 D39	佐藤 清	山田 義郎 A20
	足立 剛 D32	鵜飼 裕之 F52(2回)	杉浦 潔彦 W34	吉村 洋典 E42
	石黒 正康 D48	浦野 了 M20	松森 博巳 D29	分部 力 E23
	泉館 昭則 E25(6回)	桜井 亨 K51	三田村好矩 F41	

【団体】 M33同窓会有志 ES49同窓会有志 昭和39年建築学科卒業生一同

【上記以外に掲載希望しない方5名と1団体】

名古屋工業大学基金への寄付は、母校の発展に寄与するものです。同窓会や同期会、各種の会合等の機会を通じてご協力いただきますようお願い致します。

基金に関するお問い合わせは、名古屋工業大学基金ホームページ<http://www.nitech.ac.jp/kikin/index.html>または電話052-735-5004澤村までお願い致します。

OB講演会

平成27年2月4日（水）、名古屋工業会の大学支援事業及び名工大のキャリア形成セミナーの一環として、社会で活躍中の名工大OBを講師とした講演会を開催した。

講師は、富士機械製造(株)工作機事業本部技術部部長 長戸一義氏（M61）と日本ガイシ(株)HPC事業部製造部長 樋口憲二氏（Es62）が講演を行った。講演の概要は次のとおり。

長戸一義氏ご講演

“社会への船出”に向けて

本日は、これから就職活動をむかえられる皆さんに先輩として話をさせていただきます。私は優等生ではありませんでしたので、立派な話は出来ませんが、今の皆さんの立場で何が聞きたいかを当社の入社数年の若い社員に当時を思い出してもらいリサーチをして参りました。少しでも皆様のお役に立てればと思います。

1. はじめに

私は、愛知県知立市に本社があります富士機械製造株式会社に勤務しております。当社は電子部品組立機事業・工作機械事業を中心とした産業設備の会社です。私は、その中の工作機械事業に携わっております。

2. 皆さんはどこへ向かう？～どうやって会社を選びますか？～

皆さんは、どうやって就職先を選んでいきますか？就職したい会社は決まっていますか？今の時期の皆さんは、“どうしようか？”と悩んでいる時期ではないかと思います。多くの方が、これから就職先を決めるということで、“どうやって決めますか？”ということになりますが、今の時代は私の頃と違って非常に便利な世の中になりました。インターネットで自分の興味がある業種を打ち込んで検索すると、いくらでも企業が出てきます。興味ある企業の名前を入れて検索すれば、簡単に情報が手に入ります。ただ、簡単にホームページを開いて、“これだ



これだ”と決め付けるのは少し待った方がいいと思います。人間は、思い込みの強い生き物だと思います。例えば、ある会社は車を造っていると思ったら、目と脳がそこだけにいてしまいがちです。ところが主力製品の車以外の事業もやられたりしています。自分の思い描く企業のイメージ、それが全てだと思ったら大間違いで、晴れて入社できました、“さあやるぞ”、“いやいやこんなはずじゃなかったのに…”と、いうのは、よくある話です。

当社を例にとって話しますと、先程紹介しましたように電子部品組立機事業、工作機械事業、それ以外の事業と様々な事業があります。例えば、当社の主力事業の電子部品組立機に興味を持って当社へ入社したとします。研修を経て、辞令をもらって「えっ工作機械？私はそんなつもりでこの会社入ったんじゃないのに」と、そこで初めて現実を突きつけられて、理想と現実の違いに気付いても手遅れです。

更に、会社の中には組織がありますので、希望する事業に配属されても希望する職種につけるとも限りません。理系大学出身者だからといって、必ず設計が出来るかという、そうばかりとは言えません。大手企業になればなるほど、様々な仕事があります。ですから、企業のホームページを見て、これだと思った時に、もう一歩踏み込んで下さい。ホームページには事業形態ですとか、企業によっては組織が書いてある場合もあります。隅から隅まで目を通して、会社全体を知るようにして下さい。

皆さんも参加されていると思いますが、会社見学会等には積極的に参加して下さい。目や耳

から入ってくる情報だけではなく、直接、自分の興味のある企業に行ってみて下さい。そして、その会社の製品だけではなく、会社の雰囲気を感じて下さい。短時間の会社見学で雰囲気を感じるのは非常に難しいですが、希望する会社に直接接することがなく入社するよりは、一度足を運び、工場・事務所の中を見て、接してくれた方の人間を見る、そういった些細なことが、大事なことだと思います。そして、その会社で自分が働く姿を想像してみてください。

3. 企業はどんな人を？～技術系面接官として～

私は人事担当者ではありませんので、技術系の面接官として、学生の皆さんと面接する際に何を考えて面接しているかということをお話します。

就職先を探す皆さんは、当然真剣ですが、真剣なのは皆さんだけではありません。当たり前ですが、皆さんを受け入れる我々企業側も真剣です。

面接は、短時間勝負です。1年、2年一緒に学校で学んだ仲間であれば、その方の性格や人間性は、わかりますよね。ところが企業の面接は、限られた時間の中で自分を理解してもらわなければなりません。面接に来られる学生さんは事前に練習されているようで、皆さん優等生で中々個性が感じられません。その中にあって、いかに個性を表に出し面接官にインパクトを与えるかは重要だと思います。

この場にみえるのは理系の皆さんですから、面接の中で、何を研究してきたかを聞かれると思います。その時に注意して頂きたいのは、「私は“これこれ”をやりました」と、研究内容を直接的に話されてもあまり参考にはなりません。その研究が世の中の何に役立つのか、その中で自分が何を担っているのかをわかりやすく話すことが重要です。今一度、就職活動に入る前に思い返してください。研究の意味を理解しているかどうかということが重要です。もうひとつ注意すべき点は、専門用語です。研究室の中で、当然のように会話として成立する言葉があると思いますが、その言葉は誰にでもわかる言葉でしょうか？研究室に入るまで聞いたこともなかった言葉が、研究室にることによって当然の言葉になっていませんか？面接の場で、皆さん自身が最初に理解できなかった言葉で

我々に話していただいても、全くわからない場合が多いです。研究内容が非常に素晴らしくても、面接官に伝わらなければ意味がありません。わかりやすく研究の大意を説明することが重要だと覚えておいて下さい。

次は一般的になりますが、「明るく大きな声でハキハキ話す」これは絶対守るべきだと思います。どんなにいい話をしても、うつむいてボソボソと聞き取れないような声で話す方がみえます。どんな素晴らしい話でも素晴らしく聞こえません。

また、面接の際には様々を質問されます。その時に、黙り込むのは最悪です。会話が成立しないので、面接になりません。ですから何か答えなければいけないのですが、知ったかぶりもよくありません。面接官の中に専門家がいることがあります。その場合、簡単に見破られてしまいます。大切なのは、知らないことは知らない、はっきり答えることだと思います。潔く、今の自分をさらけ出すこと、これも面接の中で非常に重要なことではないかと思います。

私が面接官となった場合は、面接相手である学生さんが、入社した時に自分の部下として一緒に仕事がしたいか、将来自分の後を託せるだろうか、という見方をします。皆さんは面接官が自分の上司になる人だという見方で面接官の方を見るといっても、一つの方法だと思います。色々話してきましたが、面接官も10人いれば10人言うことが違います。私が話したことが全てではないことは理解しておいて下さい。また、いくつか会社を受けるとありますが、面接での失敗を後々までひきずらないよう頭の中で切り替えをしていく、これが次へ進む重要なポイントだと思います。

4. 社会の一員になるには？～皆さんに期待すること～

コミュニケーション、これは本当に重要です。「挨拶はしっかり」と、よく耳にするとと思います。皆さんは“はいはい、そうだよね”ぐらいにしか受け取ってないのではないのでしょうか？立場を変えて考えてみて下さい。例えば飲食店に入った時、気持ち良く「いらっしゃいませ」と迎えて頂ける店と、店員が不愛想にしている店と、どちらの店に行きたいですか？考えるまでもないですよね。接客業だからという話で考

えないで下さい。皆さんの多くは、理系の仕事に就かれると思いますが、たとえ理系の仕事でも、仕事というのは一人で出来るものではありません。今の研究でもそうだと思います。一人で何かに取り組む、しかし、先生・先輩からアドバイスをもらう、やはり自分の一人の力ではなく、多くの人の力を借りながら一つのことを達成する、それは社会に出ても同じです。社会に出ると、様々な試練が襲ってきます。その時に自分一人の力では解決出来ませんから、人の助け、つまりコミュニケーションが必要だと痛感すると思います。そのためには、普段から皆さん自身が所属する集団の中で、元気に挨拶することで存在感を示していなければ、人からの助けが遅れると思っておいて下さい。挨拶が大事だというのはそういうことにつながると思います。

面接の話でも言いましたが、伝える力を身につけてください。“私は、あなたに伝えました”、本当に伝わっているのでしょうか？伝えつつもになっているだけではないのでしょうか？友達の中にも、「こいつ何言ってるの？」という友達がいると思います。誰かがフォローしないと、なかなか話が伝わらない友達がいませんか？それは、伝える力が不足しているということだと思います。社会に出ると伝える力は、さらに重要になりますので、普段から意識して下さい。

次に、自分の給料をいったい誰が払っているのかを考えて下さい。勤務先の会社が払ってくれていますが、会社も黙ってお金が湧いてくるわけではありません。その先にあるのは？お客さんです。お客さんが直接自分に給料をくれるわけではないですが、自分の給料というのは、自分の勤務する会社の商品・サービスの対価としてお客さんが支払ってくださったお金を給料として頂いているわけです。一歩先まで考えてみて下さい。

それから、素直な気持ち・謙虚な気持ちを忘れないで下さい。今、皆さんは就職活動を始めようとしています。会社に入ると最初は新鮮な気持ちです。ところが1年もすると、挨拶を忘れる、後輩が入ってくると先輩面になって後輩の言うことに耳を貸そうとしない・・・そうではなく、親・上司・先輩の言うことだけではなく、自分より経験の少ない後輩・部下もすくめて一度は素直に言葉を聞きましょう。それを自分自

身の考えと照らし合わせて、自分の血となり肉となるように、努力をしていって下さい。

“踊る大捜査線”ではないですけど、「事件は現場で起きている」です。会社の中ではトラブルも含めて様々なことが起きます。その時は、必ず現場に足を運び、目で見て、耳で聞いて、臭いを嗅いで、時には触って実感して下さい。人間には、五感という非常に優れた感覚があります。その五感と身につけてきた理論をどれだけ活用できるかが、トラブルを解決する近道だということは肝に銘じておいて頂きたいと思います。

5. 最後に

一言、「気付き」です。本日は色々な話をさせて頂きました。皆さんの為になったかどうかはわかりません。“なるほど”と思った話の一つ二つでもあれば結構だと思っています。ただ、“なるほど”と思っただけで終わってしまっただけでは、何の意味もないと思います。“なるほど”と思ったことを自分の行動、生活の中で、実践して、「あの時の話はこうなんだ」と、自分自身が納得して初めて意味を持つことになると思っています。川砂の中に混ざった砂金をコツコツと拾い出して、金塊に出来るかどうかは、皆さんの心がけ次第だと思います。

最後に私の好きな言葉を一つ、紹介します。カナダの精神科医のエリック・バーンという方の言葉です。

「他人と過去は変えられない、自分と未来は変えられる」

今、この時点までの皆さん、過去の皆さんを変えることはできません。しかし、これから先の就職活動に向けて、更にはその先、立派な社会の一員となるため、過去にとらわれず、絶えず自分を磨き、明るい未来を作り上げていって下さい。

皆さんの健闘とご活躍を期待しております。

長戸一義氏の略歴

1986年	名古屋工業大学工学部機械工学科卒業
1986年	富士機械製造株式会社入社
2009年	工作機械事業本部 技術開発部 部長代理
2009年	開発センター 開発部 部長代理
2012年	工作機械事業本部 技術部 部長

樋口憲二氏ご講演

視野を広く持て!—Global企業で生きる—

名古屋工業大学大学院電気情報工学専攻を卒業し、日本ガイシに入社して25年が経ちました。今回のOB講演で自分の社会人としての歩みを振り返ることができ、その体験を皆さんと共有する機会が持てたことに改めて感謝いたします。

本投稿では、講演でお話した内容を、論点でまとめなおして文章にとどめました。

「進路と選択」

学生時代の卒業研究に進むときに自分のやりたいことを考えたことが、人生ではじめての大きな選択になりました。また、会社へ入社して配属先を示されたときも、人生2つ目の大きな選択（自分の意思ではありませんが）であったと思います。当時は、それほど重要な選択とは考えませんでした。今振り返ってみると今の自分に大きく影響を与えたと思います。

この2つの選択において、希望通りになりませんでした。皆さんも今後経験することはあると思います。私自身は、その結果に落胆しましたし、モチベーションも下がったのは事実です。幸いなことに、私は楽観的というか単純というか、その結果に対して立ち止まったままでは何も始まらないし、何も起こらないわけですから、とりあえず“前に進む”ことを選びました。与えられた環境を良く見て理解し把握して、次への一步を踏み出すことができたわけです。大学時代にそれを直接的に学ぶことはありませんが、工学的に現象を分析・考察し、論理的にストーリーを展開するという基本的な手順を生かすことができました。

講演会でもお話したように、今後の皆さんの長い人生の中では必ず思い通りにならないことがいっぱいあると思いますが、自分なりの対処法を考えてPositiveな気持ちで進めるようになってほしいと思います。



「失敗の経験」

長い会社生活の中では、何も問題なく過ごす人は少ないのではないのでしょうか。私は、30台前半で失敗を経験しました。新製品の開発にかかわり、会社の大きな期待の中での失敗。

肉体的にも精神的にもつらい時期でした。会社を辞めることも考えたことありましたが、最終的には前向きに行動し自分の進むべき方向を見出すことができました。

なぜ失敗したのか、どうすべきであったのかをじっくり考える機会があって、目標と現状のギャップが大きすぎたところへ、開発スケジュールからくる焦りで冷静な自分ではなくなっていたと思います。この失敗した経験は、非常に大きな力となりました。自分の描いたシナリオに無理があれば、謙虚に見直しして再度目標を立て直す。決して、後退はしない。

「海外駐在と成長」

目まぐるしい日本での生活から、米国での駐在という辞令を受けました。海外旅行ぐらいは経験ありましたが、そこで生活をするということに対し理解が追いつかない状況にありました。いざ、米国に住み始めると悪戦苦闘の日々でした。言葉、食生活、社会システム、銀行、医療サービスなど何から何まで日本と違う。勤務を言い渡されたのは、150名の現地金属加工会社で日本人は私一人だけでした。当初は、会話も成立せず、自分はこの会社で何ができるのだろう…。2,3年は苦勞の連続で何もわからず

成果もなく、5年頃から慣れ始め仕事回り始め、7年も経つと何とか生活ができるようになって成果が出てきた。気がついたことは、どこに行ってもやることは変わらない。ただ、一番重要なのは自分の周りにいる人々であると思いました。国や言葉は違えど喜怒哀楽の気持ちは同じで、楽しいことは楽しく感じる。仕事も、人との対話がスムーズになると、前に進むのです。そんな米国の地から日本を見ると、すごく小さく違和感を感じるようになりました。考え方が偏っているというか、単一民族なので“暗黙の了解”のようなあいまいさがあります。英語は、非常に論理的で明確に意思を表現できてしまう言語です。もともと工学系人間なので英語で考えると思考が極めて論理的に整理されるのです。こういう経験をしたことで、仕事などの効率が向上しましたし、その意味で自身が大きく成長しました。自信もつきましたね。

学生の皆さんには、同じように違った文化を経験していただきたい。機会があれば、ぜひ日本を飛び出して世界で活躍していただきたいと願うものです。

「未知の分野」

現在、私はある製品系列の製造部門の責任者の立場にあります。これまでに経験していない分野です。会社には経営企画から財務、法務、開発、生産技術、製造などなど多種多様で多くの機能がありますが、工学系の人は大抵、開発から生産技術の分野に進むことが多いでしょう。製造分野に行く人は、少ないと思います。今、私がその状況おります。これまで、技術系および管理系の仕事をしてきましたが、製造は非常に難しい分野だと感じています。製品を作るだけでなく、品質管理は言うに及ばず、労務管理や環境、安全衛生、近隣住民との対話と幅がとにかく広い。まったく未知の分野ですが、これまで培った物事を客観的に見て、今、何をすべきかを自分自身で見出し、目標設定して前に進めば、未知の分野でも道は開けると信じている。

今、その真っ只中にいるわけで、皆さんへそ

の結果をお話できないことは、誠に残念であります。機会があれば、ぜひお話したいのですが。大学時代から現在に至るまで共通していえることは、人とのつながりは非常に重要であるということです。社会の中では、それなくして成立しないと言っても過言ではありません。人をRespect（尊敬する、敬意をもつ）することで、相互理解が進みますし、自分自身がRespectされることにもつながります。そうして得た人とのつながりを持って仕事を回すと、一人で行動するより大きな仕事ができるのです。今、未知の分野で仕事をする私にとって、このRespectは最も重要なことなのです。

皆さんも、Respectを意識して周りの人々と対話してください。きっとより良き道が開けるものと思います。

「最後に皆さんへ贈る言葉」

希望の会社に入ることが目的ではありません。単なる手段に過ぎないのです。そこで皆さん自身が、何をしたい（する）かが重要であり、いかなる状況においても視野を広く持ち、後ろ向きではなく、前を向いてProactiveに進んでもらいたい。機会があれば、ぜひ世界（日本の外）に飛び出して活躍していただきたいと思います。

樋口憲二の略歴

1987年 名古屋工業大学 電子工学科 卒業

1989年 名古屋工業大学大学院 電気情報専攻 修了
日本ガイシ株式会社 入社

1989-1997年

磁気記録デバイスの設計および生産技術

1997-2000年

HDD用ガラス基板の開発

2000-2001年

半導体製造装置向け機能セラミックの設計

2001-2011年 米国駐在

2001-2003年

半導体製造装置向け機能セラミックの客先
技術サポート

2003-2010年

金属加工会社（現地法人）の運営支援

2011年-現在

半導体製造装置向け機能セラミックの製造



プロジェクト

PROJECT

コミュニティ工学フォーラム 2014報告

コミュニティ創成教育研究センター 横山 淳一 (Fb⑥)

2015年1月24日(土)、コミュニティ創成教育研究センター主催の「コミュニティ工学フォーラム2014」が開催されました。当センター設立から3年間の活動成果を踏まえたシンポジウムとして企画され、学内外より174名の方にご参加いただきました。

特別講演では、塩尻商工会議所総務課主任・空き家から始まる商店街の賑わいプロジェクトnanoda代表の山田崇氏をお招きして「空き家活用から始まるコミュニティ創成」と題して、公務員の傍ら地元商店街の地域活性化(問題解決)に実践的に取り組んでいる、数々の魅力ある活動についてご講演いただきました。

また、名古屋工業大学大学院の佐野明人教授より、無動力の歩行支援機「ACSIVE」開発と当センターとの関わりについてご報告いただきました。

第3部のパネルディスカッションでは「助け合いを工学する」と題して、知多市南粕谷学区の住民ボランティア「おたすけ会」会長の一口武夫氏と、NPO法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長の天野裕氏のお二人より、それぞれ事例を紹介していただき、その事例をもとにコミュニティ創成教育研究センターの三矢勝司特任助教のコーディネートで、特別講演の山田崇氏および佐野明人教授、センターの小田亮准教授および横山准教授が加わって工学的視点と活動者視点を交えて議論しました。ディスカッションでは、従来のマスボリュームの人間を対象とした発想から、一

人一人の多様な個性・ニーズを前提とした発想へ、工学研究者(教員および学生)の考え方を転換していく重要性や、助け合いに必要なキュレーター(相反する二つの出来事を同時に解決する人)が重要であり、その仕組みを分析・構築するための工学の必要性などが指摘されました。

■特別講演「空き家活用から始まるコミュニティ創成」山田 崇氏

日本では、2040年には896の自治体がなくなると言われています。人口減少で地域を維持できなくなるからです。塩尻市は、人口67,038人の、どこにでもある地方都市です。塩尻で困っていることは、似たような自治体でも困っていること。塩尻で解決できることは、他の自治体

コミュニティ工学フォーラム2014

日時 2015年1月24日(土) 13:30-16:30

場所 名古屋工業大学 講堂会議室

第I部 成果報告

「コミュニティ創成教育研究センターのこれまでとこれから」

(1) コミュニティ工学を目指して

名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター長 秀島 栄三

(2) 市民の方々からいただいたアイディアの社会実装の報告

名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター特任研究員 浜口 祐子

(3) ユーザーと共進化する工学の事例紹介：歩行支援機ACSIVE

名古屋工業大学大学院教授 佐野 明人

第II部 特別講演「空き家活用から始まるコミュニティ創成」

塩尻商工会議所総務課主任・

空き家から始まる商店街の賑わいプロジェクトnanoda代表 山田 崇氏

モデレーター 名古屋工業大学大学院准教授 伊藤 孝紀

第III部 パネルディスカッション「助け合いを工学する」

コーディネーター

名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター特任助教 三矢 勝司

パネリスト

おたすけ会会長 一口 武夫氏

NPO法人まち育てセンター・りた事務局長 天野 裕氏

名古屋工業大学准教授 小田 亮

名古屋工業大学准教授 横山 淳一

佐野 明人(前掲)

山田 崇氏(前掲)

でも解決されればいいな、と思っています。また、公務員がいない地域はありません。公務員が元気なら、地域は絶対元気になる、と私は思っています。平成23年1月から、毎月1回、市若手職員を対象として、プレゼンテーション能力の向上、自由な対話の場から行動に移すことを目的に、勉強会を実施しています。毎回、勉強会の最後には、プロミスカードに明日からの行動宣言を書いて発表します。ここから生まれたのが、nanodaです。

勉強会のテーマは「魅力ある商店街を考える」でした。商売したことがない、商店街に住んだことがない私は、プロミスカードに「空き家を一軒借りてみる」と書きました。それに賛同したもう一人の仲間と一緒に、空き家を借りて、毎日シャッターを開け、朝食を食べることを始めました。施策では開けられない店舗も、自分たちでお金を出せば開けられるのです。その後、nanodaはまずやってみる、プロトタイプの場合として、「朝食なのだ」「ぐるぐるカレーなのだ」「中四国なのだ」などのプロジェクトを実施しています。特に力を入れているのは、「空き家をお掃除なのだ」です。空き家をお掃除させていただき、きれいになった部屋で大家さんと一緒に食事をして、お話を伺う機会にしています。お話を伺っていて分かったことは、閉めたくて閉めている人は誰もいないということです。毎日開けるのは大変だったり、息子は店を継がないので、お店を開けなくても特に困っていない方もいます。中には、47年間閉まっていた空き家をお掃除したことで、お店を再開してくれた

大家さんもいましたが、2年間営業した後、再度閉めてしまいました。また、商店街ににぎわいを演出するため、ワンカップを飲んで、空いたカップにキャンドルを灯すイベントを行いましたが、泥酔して周りの住民から怒られました。今や商店街は、居住空間になっている、つまり住宅街であるといえます。

スタンフォード大学のグランボルツ教授が提唱する、計画的偶発性理論にあるように、個人のキャリアの8割は、予想しない偶発的なことによって決定されます。何事もやってみないとわかりません。行政の職員はどんどんやってみればよいのです。失敗しても左遷されるだけで、クビにはならないのですから。準備ができていない、仲間がいない、お金がない。行政職員がそんなことを言っていれば、困っている人は行政の前からどんどんいなくなってしまう。1人の人を救った経験がなければ、みんなを救うことはできません。1人を救った経験を仕組化するのが、行政職員の仕事だと、私は思っています。

まずやってみましょう。でも1人でやるのは大変です。誰かと一緒にやりましょう。仲間が誰もいなければ、私をナンパしてください。

■ユーザーと共進化する工学の事例紹介： 歩行支援機ACSIVE 佐野明人 教授

ロボットの二足歩行に関する研究開発に関わってきました。この技術を応用して、人間、特に片麻痺の患者さん向けのリハビリ機具を開発しました。さらに、このリハビリ機具を、足が少し不自由になった高齢者向けの歩行支援機へと改良し、現在では、製品名ACSIVEとして販売しています。リハビリ機具から歩行支援機に改良したのが近年3ヵ年ですので、3年前に設立された名古屋工業大学コミュニティ創成教育研究センター（以下、センター）の歩みと同じです。

センターの取り組みの中で、例えば、コミュニティ工学アワードに参加しました。ここにご参加いただいた市民の方々からいただいたコ



写真1. 山田崇氏講演の様子

メントや意見が、技術開発を進める上で参考になりました。また、つながりが生まれた市民の方から、その後継続的に使ってみた際のつけ心地についてコメントや情報をいただけるようになった方もいます。その他、歩行支援機の体験会やワークショップを開催する上でも、センターのサポートを得ました。これら一連の経験を通じて実感しているのは「市民の皆さんとのやりとりを通じて、我々教員や学生が進化してきた」ということです。

ACSIVEに関しては、2014年8月にTVで取り上げられたことが大きな転機になりました。TV放映後には、電話やメールで2,000件以上の問い合わせがありました。その後、全国で体験会を開催してきました。家でパジャマをきて出かけたがらないお父さんを奥様が連れてきた例もあります。技術開発をした側としては「歩行支援機の効果は、歩行の障碍の程度にもよるだろう」と考えていたのですが、体験会をやってみた感触では10人中10人が「これは！」という反応をみせたことに驚きました。新しい道具を手に入れることで、その人の生活や人生が変わる、と言えば大げさかも知れませんが、そのくらい、体験会では大きな反響があります。中には、装着体験の後、涙を流されるかたもおいでです。

初代センター長の大貫教授は、ACSIVEをみて「軽やかな支援」というキーワードを指摘されました。つまり、従来、モーターとセンサーを使った歩行支援機が「重装備の支援」と考えるとその対極にある、というわけです。



写真2. 佐野明人教授 講演の様子

ACSIVEは、歩行者本人の歩きをそっと支える、ちょっとお助けすることで、その人がもっている能力を引き出します。これをもって「軽やかな」という表現をいただきました。

その人がもっている能力を引き出す、という視点について、次のようなことも考えました。例えば、ある方から「歩行支援機の体験がしたい」というお声掛けがよくあります。以前は「お近くですので、私が出向きましょうか」と返答することが多かったのですが、「自分が出向くことによって、その人の外出機会を阻害しているのではないか」と考えるようになり、最近では、見に来てもらう、体験をしにきてもらうことも勧めるようになりました。

こうした視点や発想を得ることができたのもセンターのお蔭です。人と人、地域と大学の間にたつセンターの存在があることによって、教員と学生の進化が引き起こされ、その進化した人材によって技術も進化する。そのようにして生み出されたのがACSIVEだと考えています。

2015年度も当センターでは様々な活動を行っていく予定です。引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

■問い合わせ先

名工大・コミュニティ創成教育研究センター
TEL&FAX: 052-735-5334
community-c@lab-ml.web.nitech.ac.jp
ホームページ：
<http://community.web.nitech.ac.jp/>
センターメンバー

秀島 栄三 教授（都市基盤計画）
大貫 徹 教授（文化表象学）
岩田 彰 教授（情報セキュリティ等）
浜田 恵美子 教授（産学官連携等）
伊藤 孝紀 准教授（環境デザイン）
伊藤 孝行 教授（知能情報学）
上原 直人 准教授（社会教育・生涯学習）
小田 亮 准教授（認知科学・人類学）
横山 淳一 准教授（社会システム工学等）
船瀬 新王 准教授（医用生体工学等）
酒向 慎司 助教（知覚情報処理等）
三矢 勝司 特任助教（まちづくり）
浜口 祐子 特任研究員（環境教育）

2015年3月現在

ホットライン

国際化推進事業(学長裁量経費) 報告会

国際化推進事業（学長裁量経費）の報告会が、2月18日(水)に開催され、工業会から理事長と常務理事が出席しました

平成25年度学長裁量経費による国際化推進事業一覧

件名	国名	人数(区分)	期間	支援額	責任者	備考
1 EFREIおよびESIGELECとの国際連携に基づく情報工学グローバルプログラム	仏	7 B 4 M 3	3 M	210万円	佐藤 淳	
2 相互交流を目指した学術協定校への学生派遣	豪 芬	1 B 1 1 B 1	1 Y 10 M	165万円	中村 隆	
3 国際化に向けた欧州大学での学生の現地指導ならびに米国での派遣先大学開拓	独・英 独 米	2 D 2 2 M 2 1 教授 1	1 M 1 M 4 D	150万円	柴田 哲男	
4 グローバル研究グループによる分子変換触媒の開発	独 米 韓	1 D 1 1 M 1 1 B 1	1 M 1 M 1 M	80万円	小澤 智宏	
5 日本のものづくり再生に向けイタリアのデザイン・建築設計の現場体験を通じた人材育成	伊	5 B 3 M 1 教授	2 W	90万円	井上 雅弘	
6 橋梁用最先端大型振動台による大規模加振実験参加を通じた海外プロジェクト遂行能力の向上	中	5 M 4 助教 1	1 M 3 D	92万円	小畑 誠	
7 欧州・豪州・米国の各大学との国際交流推進事業	豪 蘭 米 西	2 M 2 1 M 1 1 D 1 1 M 1	2 M 2 M 2 M 2 M	210万円	伊藤 孝行	
8 欧米の木質古材有効活用とアルゴズミック建築設計の国際共同研究推進と国際研修先開拓	芬 米 米 米 米・米 米・比	1 M 1 1 M 1 1 B 1 1 M 1 1 B 1 1 准教授 1	5 M 3 W 2 M 7 M 2 M 6 D	190万円	北川 啓介	
9 対話コンテンツの多言語化および能動的対話システム等の応用技術の開発	英	1 D 1	6 M	105万円	徳田 恵一	
タイプA(派遣)				1,292万円		
1 欧州博士課程正規留学生奨学支援事業	独	1 D		48万円	柿本 健一	
2 ハノイ工科大学における優秀な留学候補生に対するリクルート	越	1 教授		30万円	水野 直樹	
3 同済大学とのDDプログラムでの私費外国人留学生の支援と優秀な留学生のリクルート	中	1 M 准教授		56万円	北川 啓介	
4 ベトナム国留学生に対する都市計画技術の移転	越	1 D		48万円	兼田 敏之	
タイプB(留学生受入支援)				182万円		

計 1,474万円

凡例

国名 仏：フランス 豪：オーストラリア 芬：フィンランド 独：ドイツ 米：アメリカ
韓：韓国 伊：イタリア 中：中国 蘭：オランダ 西：スペイン 奥：オーストリア
比：フィリピン

期間 Y：年 M：月 W：週 D：日

区分 B：学部 M：修士 D：博士

学内ニュース

神宮法人支援課課長補佐が「国立大学を取り巻く環境について」講演

神宮孝治文部科学省高等教育局国立大学法人支援課課長補佐が、3月17日、18日に名古屋工業大学を訪問し、「国立大学を取り巻く環境について」講演を行うとともに、大学役職者との意見交換、教育研究活動の視察を行った。

講演会では、第2期から第3期に至る政策の動向や第3期の運営費交付金の在り方の検討状況などが紹介された。

学内視察では、海外から招致した研究ユニットの外国人教員と懇談したほか、地域企業力向上を目指した産学官連携共学プログラム、自動車企業と密接に関わる産学連携など多彩な活動について、理解を深めた。

同大学では、「名工大版理工系人材育成戦略」に基づく改革を進めており、第3期の取組みについてさらに検討を加える方針である。

(事務局)



講演する神宮補佐



海外から招致した研究ユニットの外国人教員と懇談する神宮補佐

速報 鳥人間コンテスト出場決まる!!

名古屋工業大学人力飛行機研究会 NIEWs が、昨年度に引き続き鳥人間コンテスト「人力プロペラ機ディスタンス部門」平成27年7月26日（日）に出場します。

(参考；コンテスト飛行開始時間が午前6時から（飛行順は直前まで不明))

名古屋工業会のHP 会員限定ページについて

会員限定ページをご覧いただく際にはパスワード入力が必要となります。

【パスワード：gokiso5298】

今後とも、よりわかりやすい情報をタイムリーに発信してまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

学生コーナー

(名工大新聞部提供記事)

研究室の旅 市之瀬研

記：森井 伸一（都市社会工学科1年）

今回研究室の旅で訪れたのは鉄筋コンクリート構造の『耐震性』や『施工の合理化』について研究している市之瀬敏勝教授（建・デザ）の研究室だ。研究室に入る前に見える扉には、笑顔の学生がヘルメットをかぶって、実験を行っている写真がかかっており、研究室の天井や棚の上には木や紙で作られた建造物の模型が飾られている。研究室に所属している学生は12名で、和やかに研究が行われている。

鉄筋コンクリートは居住性（特に剛性と遮音性）が高い。そのため、共同住宅・病院・研究所・精密工場等の静寂を必要とする建物に用いられるが、荷重を受けたときの破壊挙動やメカニズムは複雑で、未知の部分が多く、現在も研究が進められている。市之瀬研では、地震を克服するための耐震設計や、既存の建物の補強技術の研究や、地震による建物の被害の調査研究をしている。また、効率的な建物の建て方についても研究している。

市之瀬研にて今実施されている屋外実験のテーマは、施工の効率化だ。コンクリート構造物の施工はコンクリートが固まるまで待たないといけないために長いという短所がある。具体的な対策としては、鉄筋を手早く組上げたり、型枠の代わりに薄いコンクリートを使ったり、重要な支え以外の支えを早めに外しておくなどだ。施工期間を短くすると人件費が節約できる。例えば、ワンフロアにかかる期間を3日減らせたら、10階建て30日、20階建て60日と大幅に施工期間を短縮できるという利点がある。

市之瀬研では学生への方針として、研究をみんなの前で分かりやすく説明でき、実験とシミュレーションの両方を理解できることを重視している。研究室で一番大きな行事は、毎



市之瀬敏勝教授

年秋に開催される国際トラスコンテストだ。アメリカ、メキシコ、コロンビア、トルコ、日本の大学が参加する大会で、学生は全員参加する。2001年に市之瀬研で始めたのがきっかけで、2002年から国内の他大学が参加し、2008年から国際大会となった。毎年指定されるルール下でトラスを組み、その真ん中に重りをぶら下げていき、耐えられる荷重を競う。前回の大会では名工大が2位となった。また、他の行事としてコンクリート工学会や建築学会などの研究発表会がある。

「コンクリートは100年以上使われている材料だが、分からないことが多い。また、地震の被害についても、非常に変わった被害、予想もしなかった被害がある。そのようなことを調べるのも面白いと思う。阪神大震災以降、ある種の建て方がまずいと分かったが、どうやったら克服できるかは分からない。そこを探すのが研究の面白さだ。」と市之瀬教授は鉄筋コンクリート構造を研究することの魅力について語る。鉄筋コンクリート構造に興味がある人は市之瀬研究室のホームページや市之瀬教授が執筆した教科書を是非見て頂きたい。

水谷さん、齋藤さん 講演賞

記：伊佐治 拓人（都市社会工学科3年）

岩本・大幸研究室所属の水谷聖さん（環境材料4年）と齋藤彰大さん（同4年）が、昨年12月6日に本学にて行われた日本セラミックス協会東海支部学術研究発表会にて講演賞を受賞した。日本セラミックス協会は、セラミックスの産業及び科学・技術の発展を目的として1891年に創立された、セラミックスに関するわが国唯一の総合的な学術・産業共同の団体である。

講演は、発表12分、討論3分の合計15分行われ、研究内容の新規性や質疑に対する応答の正確さなどが総合的に評価された。毎年、岩本・大幸研究室の4年生は1年間の研究成果を発表する場として学術研究発表会に参加している。

水谷さんの研究内容は『プロトン伝導ガラスを用いたプロトン局所注入技術の開発』というものだ。プロトン注入とは、水素をイオン化し、プロトン（水素イオン）をイオンビームとしてあてることにより、物質の性質を変えることをいう。この技術は、半導体の製造において、シリコンの基盤に遷移金属を注入するために用いられている。水素を電離する段階において、プロトンのみを伝導するプロトン伝導ガラスをとがらせて先端に電圧を集中させることにより、プロトンを少ないエネルギーで放出することを可能にした。今後はプロトン以外の物質への応用とさらなる効率化について研究を進めるという。

齋藤さんの研究内容は『遷移金属カチオンドーパモルファスシリカの水素反応挙動』というものだ。水素の製造において、水素のみをつくりだすことができないため他のガスと分離する必要があり、水素分離膜が使われる。水素分離膜に遷移金属を加えることにより、分離性能を向上させることに成功した。燃料電池自動車等の普及が予想されるこれからの社会への貢



水谷さん、齋藤さん

献が期待される。

受賞を受けて水谷さんは「受賞できると思っていなかったので光栄である。自分の研究が第三者にどうとらえられるか分からなかったが、評価してもらえてうれしい。大学院では、さらに発展的な研究を進めたい」と語り、齋藤さんは「今回の学会を通して、発表の仕方や研究の進め方を学ぶことができた。今後も研究に励んでいきたい」と話した。

新聞記事コーナー

中日新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2015/2/13	なごや東版朝		井戸田秀樹	建築・デザイン工学科	「街角ニュース」地震防災セミナー
2015/2/17	朝	7	鈴木喜久男 大野耐一	愛工専機械科22年卒 名工高機械科7年卒	トヨタ生産方式 父の教え一冊に 元社員の鈴木さん
2015/2/17	朝	20	名古屋工業大学	—	効率的に耐震改修植村産業など表彰 災害軽減協議会
2015/2/18	朝	21	徳田恵一	情報工学科	「メイちゃん」が庁舎案内 名工大の音声システム 半田市役所に設置
2015/2/20	浜松		宮川鈴衣奈	電気電子工学科	「リケジョが未来を築く」名工大助教講演 浜松開誠館高
2015/2/21	朝	18	名古屋工業大学	—	災害時の支援名工大が協定 昭和区、社協と
2015/2/25	朝	1	加藤正史	電気電子工学科	太陽光で水素生成 名工大開発、CO2出さず
2015/2/25	東濃版朝	20	藤岡伸子	建築・デザイン工学科	住民参加が伝承の鍵 加子母 地域づくりで討論
2015/3/2	朝	19	千田航己 森次宣文 羽原豪汰朗	在学生	名古屋市民バトミントン選手権
2015/3/3	朝	18	名古屋工業大学	—	中小企業支援へ名工大など連携 覚書調印
2015/3/25	朝	28	青木純	生命・物質工学科	燃料電池自動車 実験の中間発表 プロジェクト生徒
2015/4/2	web		名古屋工業大学	—	友達づくりに自信オン 名大などが発達障害児支援でロボ実験へ
2015/4/3	朝	30	名古屋工業大学	—	友達づくりに自信オン 名大などが発達障害児支援でロボ実験へ
2015/4/9	朝	22	クグレ・マウリシオ	情報工学科	ブラジル交流通じ多文化共生で議論

中部経済新聞

掲載日	刊	面	氏 名	所属学科等	記事タイトル(内容)
2015/1/24	朝	3	山本大介	情報工学科	「研究現場発」メディア通じて人と人結ぶ新しい価値の創造
2015/2/24	朝	3	石澤伸夫	未来材料創成工学専攻	「研究現場発」方解石結晶の百年位わたる謎解き
2015/3/24	朝	3	中野 功	物質工学専攻	「研究現場発」低EQ時代の到来 感情伝達の一助担う絵文字なるもの考案



2015年 名涛会

(名古屋工業大学空手道部OB会) 総会

名涛会は、関東・中部・近畿の3支部に分かれ、年1回各支部が持ち回りで総会を主催している。現役空手部の支援・名涛会の行事などを議題に会員相互の親睦を図るのが目的である。

今年は関西支部が当番となり、2月7～8日に、奈良市内の旅館”むさし野”で行われた。7日土曜の夜はヒバの香りの湯で疲れを癒し、40歳から80歳近い幅広い層の先輩後輩(総員19人)が宴会で交わった。その後も、宿泊部屋の一室に集まり、夜更けまで近況や昔話、夢や希望、苦労などさまざまな話題に花を咲かせた。

翌日は、総会が持たれたあと、近くの国立奈良博物館を訪ね、古都奈良の歴史と文化に触れた。昼食を取ったあと、同博物館前で記念写真を撮り、来年も健在で再会を期しそれぞれ帰途についた。

記：東 理(Es52)



W40卒業50周年記念クラス会開催

W40卒業のクラス会はさる平成27年3月28日50周年を記念して本学校友会館内【サラ】で開催しました。

東は茨城県鹿島、西は岡山と総勢21名の多くの旧友が全国から集い盛大に行うことができました。

幸いにして快晴に恵まれ、久しぶりに学校にきた皆様は大幅に変わった校舎を散策したり校友会館資料館を見学したりし、懐かしい思い出の材料となりました。

会に始まり亡くなった6名の方々に哀悼の意を唱え、その後参加者全員の近況報告で盛り上がり旧交を深めることができました。この中で70歳を超え、さらに現役を続け、活躍している方が6名あり驚きです。

終わりに正門の前で記念写真を撮り一次会解散し、2次会は鶴舞公園の萩の茶屋で春爛漫の中でお花見をしながら、名古屋名物味噌おでんを食べながら再び杯を交わし再会を約し帰路につきました。

記：幹事 沼田長之(W40)



名工大正門前

第101回 名工大ごきそ会報告

平成27年3月26日(木)に第101回名工大ごきそ会を桜もようやく開花し始めました名門桑名CC倶楽部で16名の参加者をえて、開催をいたしました。

今回も天候にも恵まれ、絶好のゴルフ日和となりました。しかし、特に冬場の桑名CCは、難しく一筋縄でいかないコースとなります。やはり、各ホールで四苦八苦される姿が見受けられました。結果は、クラブメンバーであります加藤倫朗様(Y40)がネット84で優勝されました。2位は、今回、新会員で始めて参加されました水嶋敏郎理事長(M42)が同じくネット84(規約で初出場の方は、優勝は2回目以降)で獲得されました。そして3位は、前回優勝者であります森井敏郎様(W41)がネット88で獲得されました。競技後、懇親会に入り和やかな中で、表彰式を行いました。そして次回は、6月30日(火)愛知CCでの再会を約し、散会としました。

記：会計 森川 民雄(W45)



第222回 名工会東京支部ゴルフ大会報告

めでたくも、トリプル2の回数を重ねた第222回名工会東京支部ゴルフ大会が、松下 昭(E23)様のお世話により、3月31日 本厚木カンツリークラブにて開催の運びとなり、総勢24名の出席のもと日頃培った腕を競い合わせて頂きました。

当日は皆さんの精進が良い為か、桜も満開となり快晴の中でのゴルフでありましたが、馬の背の形状と高速のグリーンに悩まされ、全体的にスコアが伸びず、通常より10打程悪い結果となったようです。

優勝は山川元伸(A44)様、第二位が安藤文夫(E31)様、第三位が野澤滋為(M36)様となりました。特筆すべきは92歳になられた小関健二(M18)様が第四位となり、その力あふれるショットにはびっくりさせられました。

懇親会ではその秘訣をお聞きしたり、次回の大会の日取りを決めたり和気あいあいの中で進行し、又会より古希のお祝いとして、山川元伸、赤井憲彦両氏に七宝焼が授与されました。

尚、次回の第223回は千葉県佐倉CCで6月2日(火)に開催することになっています。

記：実行委員 川島 泰(C44)
赤井憲彦(C44)



「会費の口座自動引き落とし」をご利用の会員様へ

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 水 嶋 敏 夫

名古屋工業会会費の口座振替のお知らせ

会員の皆様におかれましてはますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

会費納入につきましては、ご協力いただき感謝いたしております。

名古屋工業会は、母校の発展と会員相互の交流・啓発を図り、卒業生が実り多い人生を過ごすことができますよう、諸活動を活発に行っています。

これも会員各位の御支援があるからこそ、と感謝いたしております。

早速でございますが、平成27年度の会費納入を、お願い申し上げます。

終身会員の取り扱いにつきましては下記の通りでございます。

工業会の活動はこの会費収入に依存しておりますのでよろしくお願いいたします。

※自動口座振替ご利用の方は、平成27年7月6日（月）にご指定の銀行より、
金5,000円也を引き落としさせていただきます。

記

【終身会費について】 ※平成26年4月1日より会費改定しております。

卒業後10年未満の方	80,000円
卒業後10年以上の方	60,000円
卒業後20年以上の方	50,000円
卒業後30年以上の方	40,000円
卒業後40年以上の方	30,000円
卒業後50年以上の方	20,000円
卒業後60年以上の方	10,000円

※「会費の郵便振替」をご利用の会員様へは次号、振込用紙を同封致します。

一般社団法人 名古屋工業会

平成27年度 定期総会及び会員総会のご案内

記

と き	平成27年5月23日（土）
と ち ろ	中日パレス（中日ビル5F） 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-1-1 TEL 052（261）8851
定 期 総 会	12：30～14：00 コスモス (定期総会は代議員のみの総会です。)
会 員 総 会	14：00～15：00 クラウンホール
特 別 講 演	15：30～16：45 ”
懇 親 会	17：00～19：00 エンゼル <u>※懇親会費 5,000円（当日受付へお支払いください）</u>

〔定期総会〕

（決議事項）

- 第1号議案 平成26年度事業報告及び収支決算報告
- 第2号議案 平成27年度事業計画及び収支予算案
- 第3号議案 代議員の選任
- 第4号議案 役員の選任
- 第5号議案 その他

〔会員総会〕

（1）定期総会（代議員のみの総会）での決議事項報告

（2）行事

- イ．叙位叙勲等表彰者に記念品贈呈
- ロ．母校退職教職員への感謝状と記念品贈呈
- ハ．卒業満70年(S20年卒)、60年(S30年卒)、50年(S40年卒)、40年(S50年卒)の
正会員への記念品贈呈
（↑会員総会の出欠ハガキを返信された方に限る）

- ニ．特別講演 講師：トヨタ自動車株式会社 元常務取締役・
トヨタ車体株式会社 元取締役会長
塩見 正直 氏（M34）

演題：「サステナブル・モビリティの実現に向けて」

※出欠ハガキは前号の会誌「ごきそ」3-4月号に挟み込みしておりますので、
そちらをご利用ください。

表紙写真説明

「4号館完成」

写真提供 橋本 忍（ZY②）

東京支部「第55回 東京ごきそサロン」開催のご案内

開催日時：平成27年6月10日（水）18時00分～20時00分

開催場所：八重洲倶楽部（東京駅八重洲口地下）電話：03-3275-0801

テーマ：「生物に学ぶ驚異のナノテクー現代生活に役立つ生物機能の事例紹介とその応用の現状ー」

講師：川口 武行（かわぐち たけゆき）氏（D44卒）

東京工業大学特任教授、ナノファイバー学会副会長

※詳細は、本会HP【会員限定】>支部>行事案内 をご覧ください。

会費：名古屋工業会会員：1,000円、非会員：1,500円（全員に食事が付きます）

申込先：食事の準備の都合上、6月6日（水）までに下記の各科常任幹事宛、電話、FAX

又はe-mailでお申し込み下さい。各科常任幹事は出席者名簿を6月6日（土）まで

に鈴木まで E-mail (spyn5cf9@canvas.ocn.ne.jp) によりご連絡下さい。

C：榎尾恒次 Tel：03-5833-7722

Fax：03-5833-7740

e-mail: k_kashio@koutsuservice.jp

A：石田交広 Tel：03-3533-6081

Fax：03-3533-9407

e-mail: t_ishida@tomoe-corporation.co.jp

M：松浦明人 Tel：080-3560-1430

e-mail: matsuura.akito@showa-aircraft.co.jp

E：三浦太朗 Tel/Fax：050-1580-3039

e-mail: violataro@yahoo.co.jp

D：鈴木満雄 Tel/Fax：03-3713-8214

e-mail: spyn5cf9@canvas.ocn.ne.jp

W：印藤 嶠 Tel/Fax：047-492-1384

e-mail: t-nikkal117@cg7.so-net.ne.jp

Y：日沖 昭 Tel/Fax：045-911-3340

e-mail: hioki3@y6.dion.ne.jp

K：細谷佳弘 Tel/Fax：03-5721-0367

e-mail: y-hosoya@oo.em-net.ne.jp

F：小川一郎 Tel/Fax：049-264-0767

e-mail: i-ogawa@mtj.biglobe.ne.jp

B：佐藤 弘 Tel：045-825-3734

e-mail: sato-sato@c3-net.ne.jp

名古屋工業会大阪支部・名晶会大阪支部共催 「山陽特殊製鋼(株)」見学会のご案内

名古屋工業会大阪支部長 木越正司（C44）

名晶会大阪支部長 加藤 修（K48）

平成27年度名古屋工業会大阪支部・名晶会大阪支部共催工場見学会を次の通り開催いたします。

日本を代表する特殊鋼メーカーである山陽特殊製鋼(株)は、世界に誇る「高纯净度鋼/高信頼性鋼」をグローバルに展開されています。今回、工場見学を通しその技術をご紹介しますので会員の皆様の奮ってのご参加をお待ちいたします。

尚、同じ姫路にある衣川製鎖工業(株)の衣川社長による「鉄の不思議」と題する講演も拝聴いたします。

記

1. 日時：平成27年6月20日（土） 午前12時30分集合

2. 集合場所：JR姫路駅中央出口

3. 日程：13：00～15：30 会社説明及び工場見学

15：30～16：30 講演会

16：30～18：30 懇親会

4. 参加費用：4,000円

5. 参加人員：30名

6. 申込先：田口教平 E-mail: taguchi.fkkt@hera.eonet.ne.jp TEL: 090-2198-0924

岡崎格郎 E-mail: okatopia1317@yahoo.co.jp TEL: 090-1097-4217

7. 申込み締め切り日：5月31日

8. 申込み記入事項：①氏名 ②勤務先(OBの方は元) ③住所 ④学科・卒業年次 ⑤Tel/Fax

⑥緊急連絡用携帯番号 ⑦E-mail

平成27年度 名古屋支部総会

平成27年度名古屋支部総会を次の通り開催致します。本年度は、母校の学科改組を来年度に控え、鶴飼学長にご講演をお願いしております。会員の皆様はぜひご参加下さい。

1. 日 時：平成27年 6月27日（土）14:30 ～ 受付開始
2. 場 所：名古屋工業大学 1号館 0112教室
3. 日 程：総会（15:00～16:00）
講演会（16:00～17:00） 鶴飼裕之 名古屋工業大学学長
講演題目「名工大の精神とめざす大学像」
名古屋ビール園浩養園（17:30～）
4. 会 費：支部総会、講演会；無料
懇親会；1名 2,000円（ご家族同伴の場合、人数分徴収）
5. 申 込 先：下記の支部連絡先に直接ご連絡いただくか、単科会連絡幹事等へ。
締切は6月6日（土）

支部連絡先：栗田 典明（名古屋工業大学環境材料工学科内 名古屋工業会名古屋支部庶務）

E-mail：kurita@imono.mse.nitech.ac.jp

TEL：052-735-5297 / FAX：052-735-5571

C E 会	和田 亮一（C62）	TEL052-954-6538	名窯会	多賀 茂（Y62）	TEL090-6801-3353
光鱈会	宇佐美智伯（A6）	TEL052-704-6137	名晶会	栗田 典明（K60）	TEL052-735-5297
巴 会	杉山 耕一（M6）	TEL052-872-9251	計測会	大鑄 史男（F49）	TEL052-735-5393
電影会	三宅 正人（E60）	TEL090-3581-4472	経友会	仁科 健（B50）	TEL052-735-5396
双友会	泉地 正章（W44）	TEL052-837-7271	情友会	松尾 啓志（J58）	TEL052-735-5446
緑 会	大橋 聖一（D45）	TEL0533-87-3741			

各単科会幹事様はメールにて参加者情報をご連絡いただけますと幸いです。

名古屋工業大学 産学官連携センター・研究協力会 創立15周年記念特別講演会開催のご案内

本年度の特別講演会は、研究協力会創立15周年を記念し、お二人の講師をお迎えいたします。

名工大産学官連携センターのセンター長でもある江龍 修 先生には、名工大におけるこれからの産学官連携について熱く語って頂くとともに、名工大のご出身でもあるNTTドコモの加藤 薫 社長には、ドコモが目指すスマートライフを中心にこれまでのご経験を踏まえてご講演を頂きます。いずれも会員の皆様にとりまして興味深いお話が伺えるものと確信いたしております。多数のご参加を期待いたします。

日 時： 平成27年6月5日（金）15：50～17：50（15：20開場）

場 所： 名古屋工業大学 4号館ホール（1階）

スケジュール：テーマ① 名工大の活用と研究テーマの共創（15：50～16：20）

講 師 名古屋工業大学 副学長 産学官連携・地域貢献担当 教授 江龍 修 氏

テーマ② スマートライフのパートナーへ（16：30～17：50）

講 師 株式会社NTTドコモ 代表取締役社長 加藤 薫 氏

定 員： 180名（参加無料、先着順）

※受講票は発行しません。定員を超えた場合のみご連絡します。

※参加申込方法等の詳細は、下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://partner.ccr.nitech.ac.jp/?p=4779>

問合せ先： E-Mail：kyoryoku-pal@adm.nitech.ac.jp

名古屋工業大学をご卒業（修了）された女性の皆様

名古屋工業大学は、文部科学省の平成26年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」に採択されました。工学系は、理系の中でも特に女性研究者の割合が少なく、新しい時代の工学を担うべき女性研究者を増加させ、その活躍を支援することが今強く求められています。そうした時代の要請に応えて、昨年12月1日に「男女共同参画推進センター」を発足させ、包括的な女性研究者支援に着手しました。

本センターの事業の中でも、最も文部科学省から期待され、社会的な反響も大きいのが、「OG人財バンク i-net」の構築です。これは、本学に在籍する女性研究者を支援する研究支援員を、専門的なスキルを持ちながら、現在何等かの理由で第一線を退かれている本学の女性卒業生から起用しようというものです。こうした目的の他、第一線でご活躍の方々には、男女共同参画に関する講演等をお願いするほか、ロールモデルとして広報誌で紹介させて頂くなど人財情報源として活用させていただきたいと考えております。

なお、「OG人財バンク i-net」へご登録頂くと、セミナーや講演会の開催等、皆様に有用な情報をお届けする共に、ライフステージやニーズに応じて皆様の活躍の場を拡げる情報共有プラットフォームとして拡充していきたいと考えております。

センターでは以下のウェブサイト（<http://www.nitech.ac.jp/gender/>）に女性卒業生の皆様を対象に、登録窓口を設けご登録をお願いしております。ご多用の中恐縮ですが、是非ともアクセスいただき、名古屋工業大学の女性コミュニティ拡充のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

「OG人財バンク i-net」活用事例

CASE 1

工学系女性人財ニーズに応える 人財データベースとしての活用

具体例

- 女性研究者研究支援員への起用
- ロールモデルとして学内外への紹介
- シンポジウム等での講演依頼



CASE 2

OG間の情報交換

具体例

- メールマガジン等での有用情報の提供
- セミナー等の情報共有



CASE 3

多様な交流機会の創出

具体例

- i-cafe(交流サロン)での多様な交流会の開催
- 啓発イベントの開催
- シンポジウム・セミナーの開催





名古屋工業大学公開講座

平成27年度公開講座実施一覧

No.	名 称		対 象 者	募集 人数	期 間	実施時間	料金[円]
0	名工大のロボット開発と挑戦		高校生及び一般市民	100	H27.5.30、 H27.6.6	H27.5.30 13:00~15:25 H27.6.6 13:00~15:20	無料
No.	担 当	名 称	対 象 者	募集 人数	期 間	実施時間	料金[円]
1	情報工学科 (総務省 寄附講義)	情報通信技術政策 1	一般市民	25	H27.4.9~ H27.4.30 (4回)	16:20~17:50	無料
2	情報工学科 (総務省 寄附講義)	情報通信技術政策 2	一般市民	25	H27.5.14~ H27.6.4 (4回)	16:20~17:50	無料
3	情報工学科 (総務省 寄附講義)	情報通信技術政策 3	一般市民	25	H27.6.18~ H27.7.9 (4回)	16:20~17:50	無料
4	技術部	プログラミング体験:「ラズベリーパイと スクラッチでゲームを作ってみよう」	小学校3年生~ 中学校1年生程度	8	H27.6.14	9:30~16:10	無料
5	生命・物質工学科・ JAXA 共催	子供向け科学体験実験講座	小学校 3年生~6年生	50 (ただし 年3回の うち1回は 100人)	H27.6、H27.9、 H28.3の週末 (未定)	13:00~15:00 (ただし年3回のうち 1回は 10:00~12:00 及び 13:00~15:00)	無料
6	都市社会工学科	土木計画者のための統計解析基礎	社会人技術者	30	H27.7.18	13:00~17:30	2,440円
7	留学生センター	世界の遊びと文化 (3)	中高校生	20	H27.7.25	13:30~16:30	無料
8	極微デバイス機能 システム研究センター	半導体ナノテクノロジー : 日本を支える最先端技術	一般市民	20	H27.8.3	13:00~17:00	無料
9	先進セラミックス 研究センター	宝石をつくる	高校生及び一般市民	30	H27.8.5	14:00~16:00	無料
10	技術部	第15回「ものづくりに挑戦!」	中学生	100	H27.8.5~ H27.8.7	9:00~16:30	無料
11	機械工学科	体験! 機械工学 - 基礎から学ぶ身のまわりの 機械の不思議 -	高校生	30	H27.8.6及び H27.8.7	10:00~16:00	無料
12	情報工学科	「見る・聴く・話す」知覚メディア技術の 最先端	高校生及びその家族 等	50	H27.8.7	13:00~17:00	無料
13	電気電子工学科	この電子材料が21世紀の暮らしを支える - 電気電子材料・電子物性入門コース 第14回	高校生	30	H27.8.7	13:00~17:00	無料
14	電気電子工学科	電気で遊ぼう! 電池とモーターの楽しい工作	小学生高学年 (4~6年生)、付き添い として保護者の参加歓迎	40	H27.8.22	13:00~16:30	無料
15	生命・物質工学科	科学的運動トレーニングについて学ぼう	高校生及び一般市民	100	8月中の平日を 予定	10:30~12:00	無料
16	大型設備基盤センター	分子・物質合成とナノ計測	高校生及び一般市民	30	平成27年8月 下旬	13:00~16:00 (予定)	無料
17	情報工学科	IT技術で世界を見る! 世界を変える!	高校生	30	H27.9.5	13:30~17:00	無料
18	建築・デザイン工学科	建築的胎動 名古屋工業大学建築設計講義	本学・他大学学生 及び一般市民	20	平成27年10月 上旬に3回、 11月下旬から 12月上旬に3回 (いずれも平日)	13:00~14:30 (予定)	3,690円
19	情報工学科	プログラミング体験 ~ロボットを動かすプログラムを作ろう~	高校生及び一般市民	20	H27.11.7	13:30~16:30	無料
20	情報工学科	コンピュータサイエンス・アドベンチャー - 理論計算機科学はこんなに面白い!	高校生及び一般市民	20	H27.11.21 (工大祭開催日)	10:00~15:30	無料
21	工学教育総合センター	名古屋の魅力発信 名古屋栄⑨ 名古屋・東海を舞台とした映画	一般市民	未定	H27.10~ H28.3(1回)	14:00~15:30	無料
22	工学教育総合センター	快適で安全な生活を支える科学技術	高校生及び一般市民	50	H27.10~ H28.3(3回)	13:30~15:00 または 14:00~15:30	無料

・講師、会場の都合や警報等の発令により、講座の日程等が変更になる場合がありますので、HP、TEL等で、ご確認ください。

各講座の詳細はホームページに掲載しています。

アドレス <http://www.nitech.ac.jp/course/index.html>

名工大公開講座

検索

事前申込みが必要です。申込方法等は裏面をご覧ください。

平成27年度名古屋工業大学 公開講座申込書

講 座 名	No.		名 称		
フリガナ				性 別	年 齢
氏 名				男 ・ 女	歳
連絡先住所	☐ 自宅	〒			
	☐ 会社				
電 話 番 号	() —				
携帯電話番号	() —				
F A X 番 号	() —				
E メ ー ル ア ド レ ス	@				
※パソコンからのメールが受信できるアドレスをご記入ください。					
勤 務 先 又 は 学 校 名					
この講座をお 知りになった 情 報 源	☐ 名工大HP ☐ その他Web ☐ パンフレット ☐ チラシ ☐ 新聞 ☐ 勤務先又は学校からの紹介 ☐ 知人・家族等 ☐ その他 ()				
	・「その他Web」の場合、その名称を選択又は記入してください。 ☐ 生涯学習Webナビなごや ☐ あいちの学校連携ネット ☐ その他 ()				
	・「パンフレット」「チラシ」の場合、その受取場所を選択又は記入してください。 ☐ 名工大からの郵送 ☐ 生涯学習センター ☐ 図書館 ☐ 区役所 ☐ その他 ()				
備 考					

※お申込みは各講座の受付期間内をお願いします。
 ※受付期間終了後、上記連絡先へ受講のご案内をEメールもしくはFAXにてご連絡します。
 ※希望テーマを選択するものについては、備考欄に希望順に番号を記載してください。
 ※複数の講座に申し込まれる場合は、本紙をコピーの上、講座毎にお申込みください。

申込方法

以下の(1)～(4)の方法があります。

- (1) ウェブサイトから申し込む方法
<https://koukaikouza.ict.nitech.ac.jp/recetion/>
 から申し込んでください。
- (2) 電子メールで申し込む方法
 次の前事項明記の上、メールの件名を「公開講座申込み」として、下記e-mailアドレスへ送付してください。
 ①受講講座名
 ②氏名(ふりがな) ③性別
 ④年齢(学生の場合は学年も) ⑤住所 ⑥電話番号
 ⑦勤務先又は学校名
 ⑧この講座を知った情報源
 ⑨メールアドレス
 ⑩案内の中で指示のあるものは、その指示に従ってください。
- (3) 郵送またはFAXで申し込む方法
 公開講座申込書に必要事項を記入して、下記申込先へ送付して下さい。
- (4) 窓口で直接申し込む方法
 公開講座申込書に必要事項を記入して、提出してください。

受講にあたっての留意事項

- (1) 有料の講座については、講習料納入後の払い戻しはできません。
- (2) 受講希望者多数の場合には、期限前でもお申込みの受付を終了させていただく場合がございます。
- (3) 受付期間終了後、受講のご案内をEメールもしくはFAXにて通知します。
 ※有料講座の申込みをされた方には、別途講習料の納入方法をお知らせします。
- (4) 受講日には、講義開始時間までに直接会場に集合願います。
- (5) キャンセルは極力ご遠慮ください。やむをえず受講を辞退される場合には、上記問い合わせ先までご連絡願います。
- (6) 自動車による名古屋工業大学構内への入構はご遠慮ください。

申込先・問い合わせ先

〒466-8555
 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学学務課学部係
 e-mail : gakumu-tan@adm.nitech.ac.jp
 T E L : (052) 735-5066 (ダイヤルイン)
 F A X : (052) 735-5072
 U R L : <http://www.nitech.ac.jp/course/>
 本パンフレットで未定となっている箇所については、HPIにて随時更新いたします。